

2016年度入社式 社長あいさつ(要旨)

皆さん、おはようございます。入社誠におめでとうございます。

本日新たに43名の仲間をわが社にお迎えすることを大変うれしく思います。日産化学グループ2400名を代表し、心から歓迎の意を表します。

今日社会人としての第一歩を踏み出す皆さんに、社長として、社会人の先輩として、心がけて欲しいことを3つお話しします。

一つ目は、「誠実」ということです。

当社は社風、企業風土として「誠実に、愚直に」を大事にしている会社です。私たちは技術系・事務系を問わず、自然法則の上に成り立つサイエンス、ケミカルに係って仕事をしています。自然法則は手を抜くと必ずほころびが出るものです。このことを常に念頭に置き、企業人として、コンプライアンスを始め、高い倫理性を持つことは当然ですが、誠実に、愚直に、一生懸命取り組むことでしか成果を得ることができないことを肝に銘じて頂きたいと思います。

二つ目は、「変化は進化」という言葉です。

変革は過去の延長線上にはありません。変革を成し遂げるためには、常に疑問を持ち、現状を打破しなければなりません。皆さんは、大学で定理、定説を学んできましたが、これからは、疑うことが大事になってきます。そして、目の前の業務を何とかして前とは同じようにしないことです。これには多大な労力を要しますが、成し遂げるエネルギーが感受性豊かな皆さんには必ずあると信じています。

そして三つ目は、「仕事を好きになる」ということです。

私は入社5年目の頃、今の仕事が自分にとって天職か否かで随分悩みました。しかし、考えても分からない。そこで徹底的に仕事をして、与えられた仕事を面白くしてみようと割り切ることにしました。試行錯誤を繰り返す中で、ようやく今の仕事こそ天職であったと、気づく瞬間がありました。悩みながら、自分の天職、使命とは何かを探す、このプロセスを経験することが大事だと考えています。仕事を天職だと考える、困難を乗り越える秘訣は、仕事を好きになることです。皆さんも徹底的に仕事をして、仕事を好きになってください。

最後に、当社は来年、創業130周年を迎えます。創業者の一人である高峰譲吉は、「医学が救うのは一人ひとりの患者だが、化学は万人を救う」との思いから、父親を説得し、江戸時代から続く家業の医者道には進まず、化学の道を選んだと言われていました。世の中を豊かにしたい、困っている人々を助けたい、という根底にある強い思いから、日本初の化学肥料製造会社、東京人造肥料会社を創業しましたが、当時世間に認知されていない化学肥料の販売は困難を極め、一時は会社解散の危機にも直面しました。それでも諦めることなく地道に製品の普及に尽力することで、農作物の生産性向上に大きな貢献をしてきた歴史があります。

このように当社グループは、幾多の困難を乗り越えてきたからこそ、今日があります。これからも存在感のある化学会社への成長を目指し、未来を切り拓いていかねばなりません。その目標に向かって、改めて当社グループの仲間として「ともに頑張っていきましょう」という熱い歓迎の気持ちをお伝えして、私

の挨拶とします。

本日は入社誠におめでとうございます。

社長 木下 小次郎